

伊豆シャボテンリゾート株式会社

2024年3月期

決算説明資料

事業説明（各事業の概況）

【レジャー事業】

- 来場者数がコロナ前を上回る（2期連続）
- 売上高（昨年対比8.8%増）、セグメント利益（昨年対比27.9%増）共に増加

【アニタッチ事業】

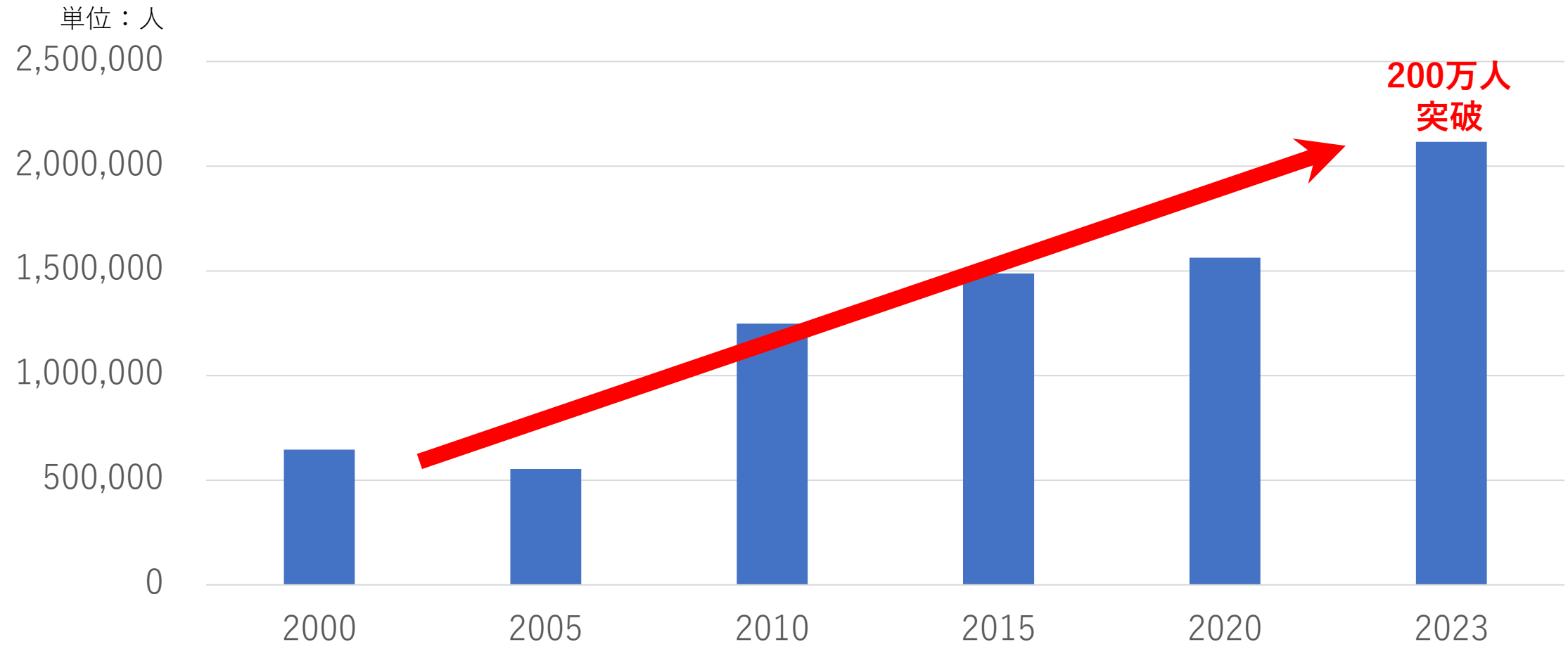
- 動物ふれあい施設『アニタッチ』は、今期段階的に計4店舗を新規出店
- 多数メディアの取材（放映など）を通じ、売上高（昨年対比112.8%増）、セグメント利益（昨年対比44.4%増）共に増加

【ホテル事業】

- 23年4月に、弊社第三の事業としてホテル事業を開始
- 売上高、セグメント利益、共に計画を上回る

- 伊豆シャボテン動物公園グループ年間来園者数200万人を突破
- 達成記念キャンペーンとして、伊豆の3施設で“入園無料感謝祭”開催

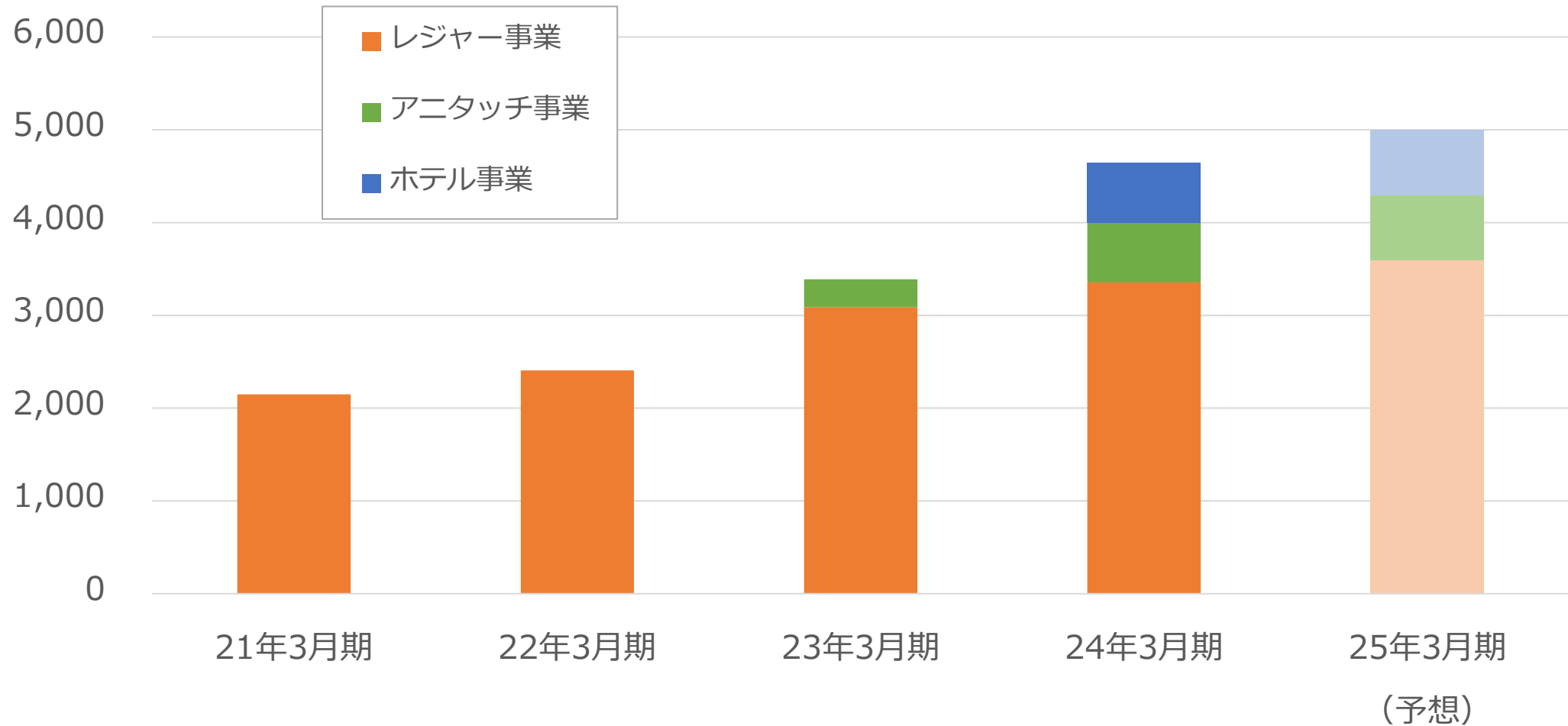
来園者数（グループ合計）



- 【売上高推移】

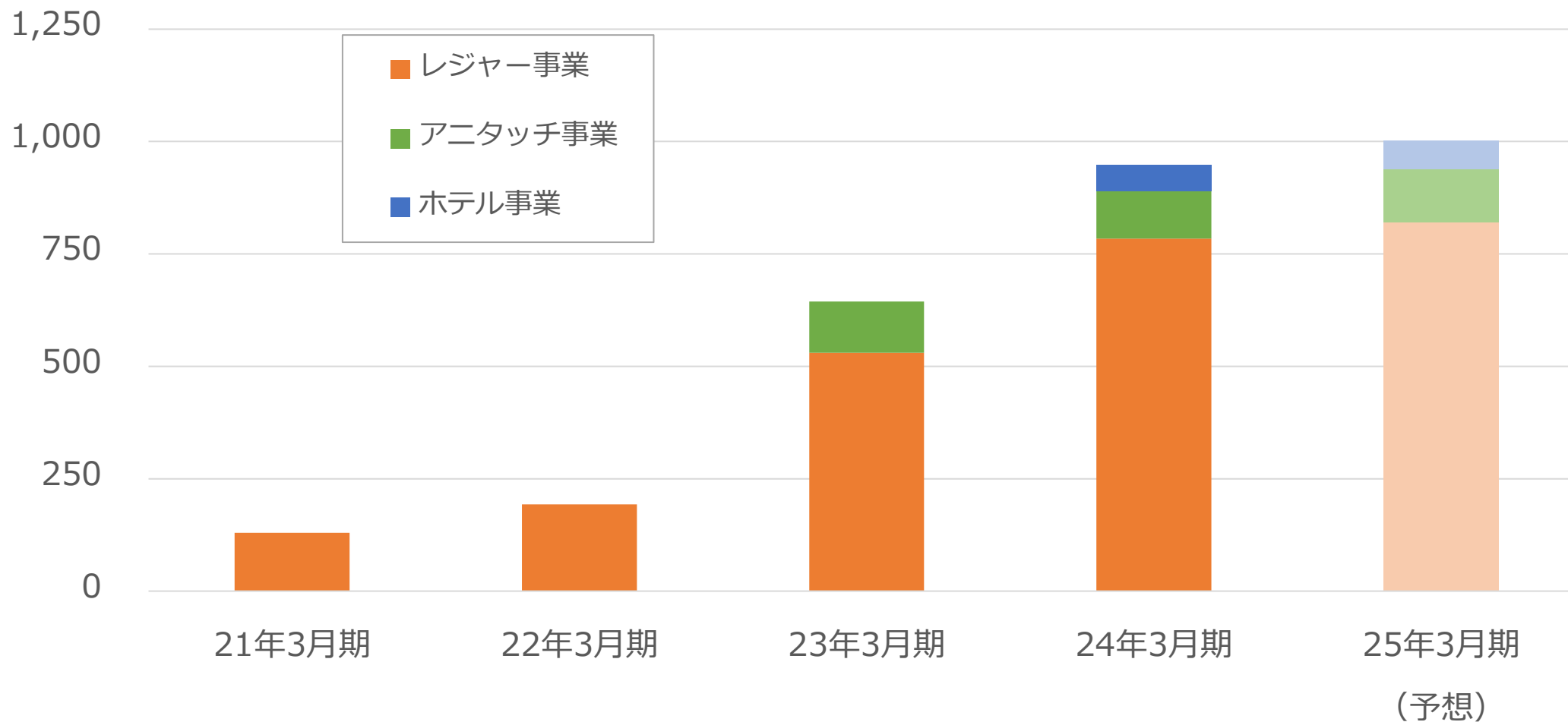
(2021年3月期～2024年3月期) * 25年3月期業績予想含む

単位：百万円



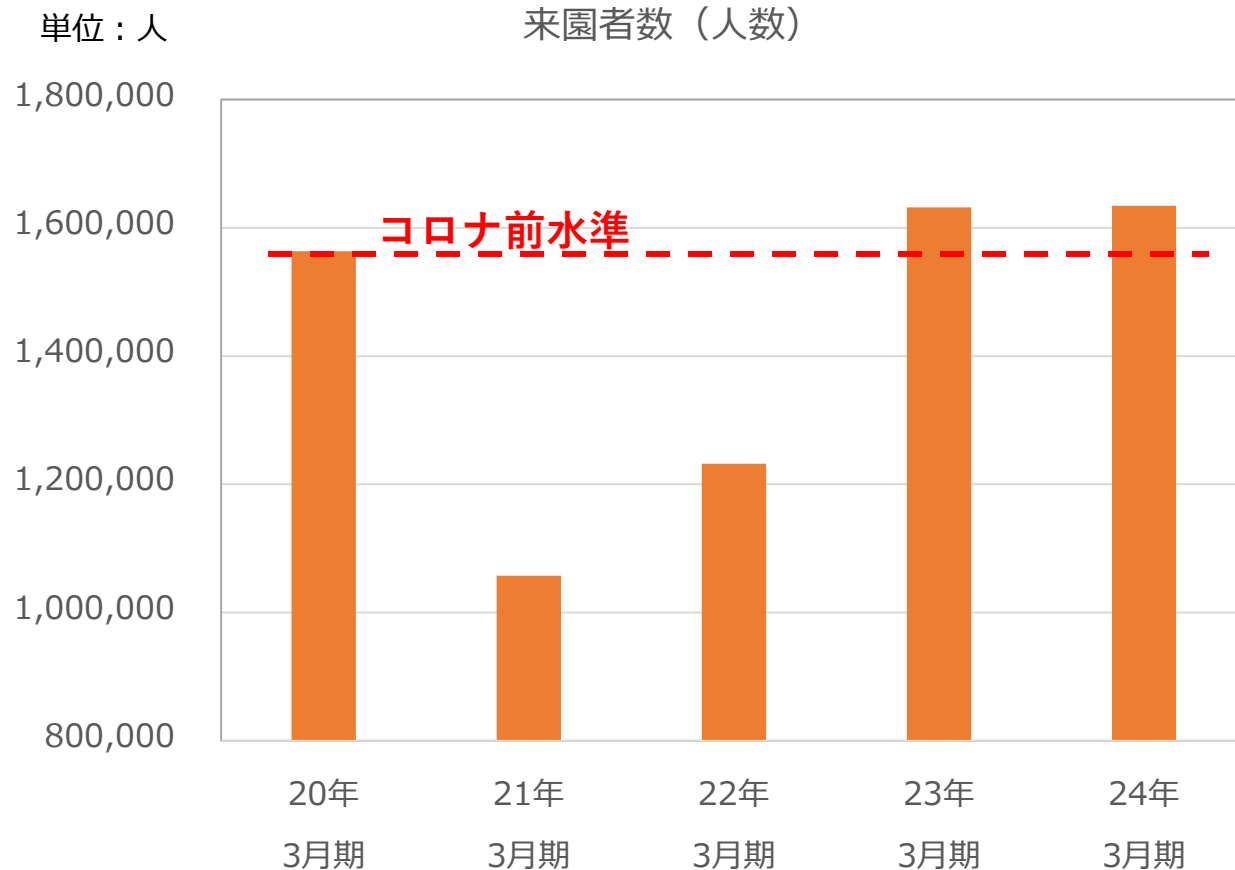
- 【セグメント利益推移】
(2021年3月期～2024年3月期) * 25年3月期業績予想含む

単位：百万円



【レジャー事業】

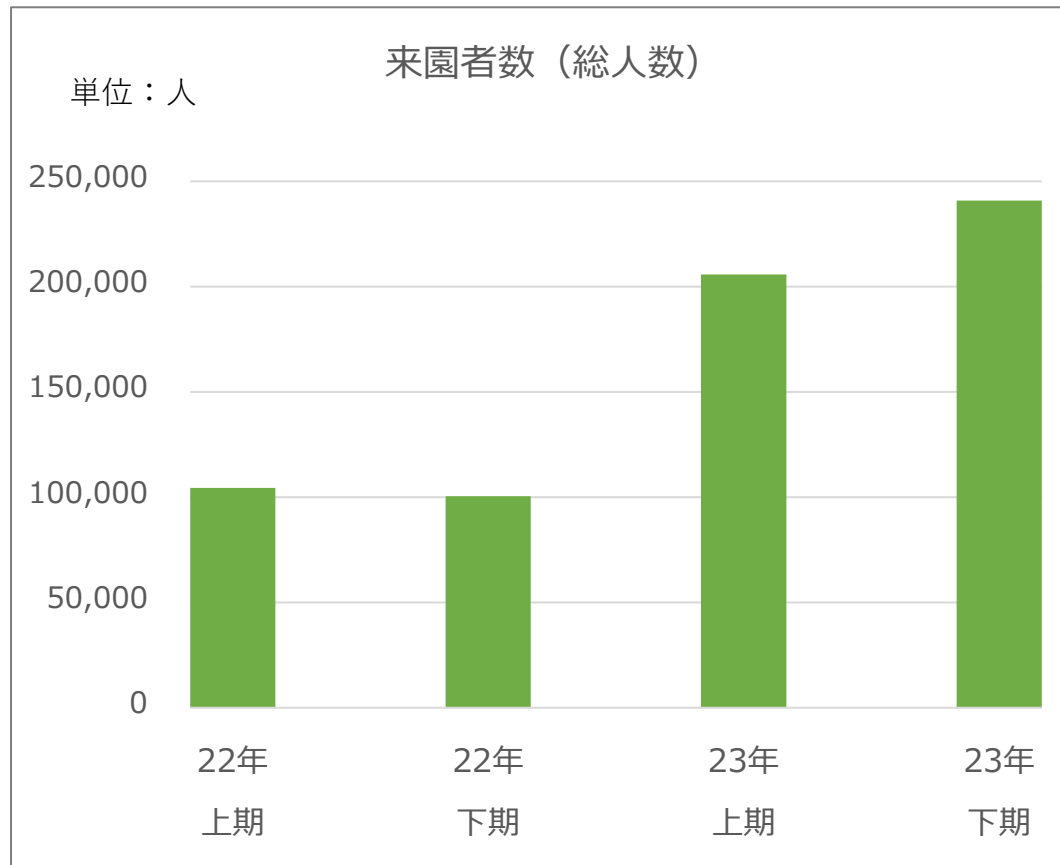
- 来場者数が、2期連続でコロナ前の水準を上回る
- 特に「伊豆シャボテン動物公園」が好調



- 開園当初より動物の放し飼いや檻のない環境での飼育を実施
- 国内のみならず海外にも人気が波及している「カピバラの露天風呂」
- 園内中央に位置する池をボートで巡り、動物たちとのふれあいや観察ができる国内唯一の展示方法を採用した「アニマルボートツアーズ」を開始

【アニタッチ事業】

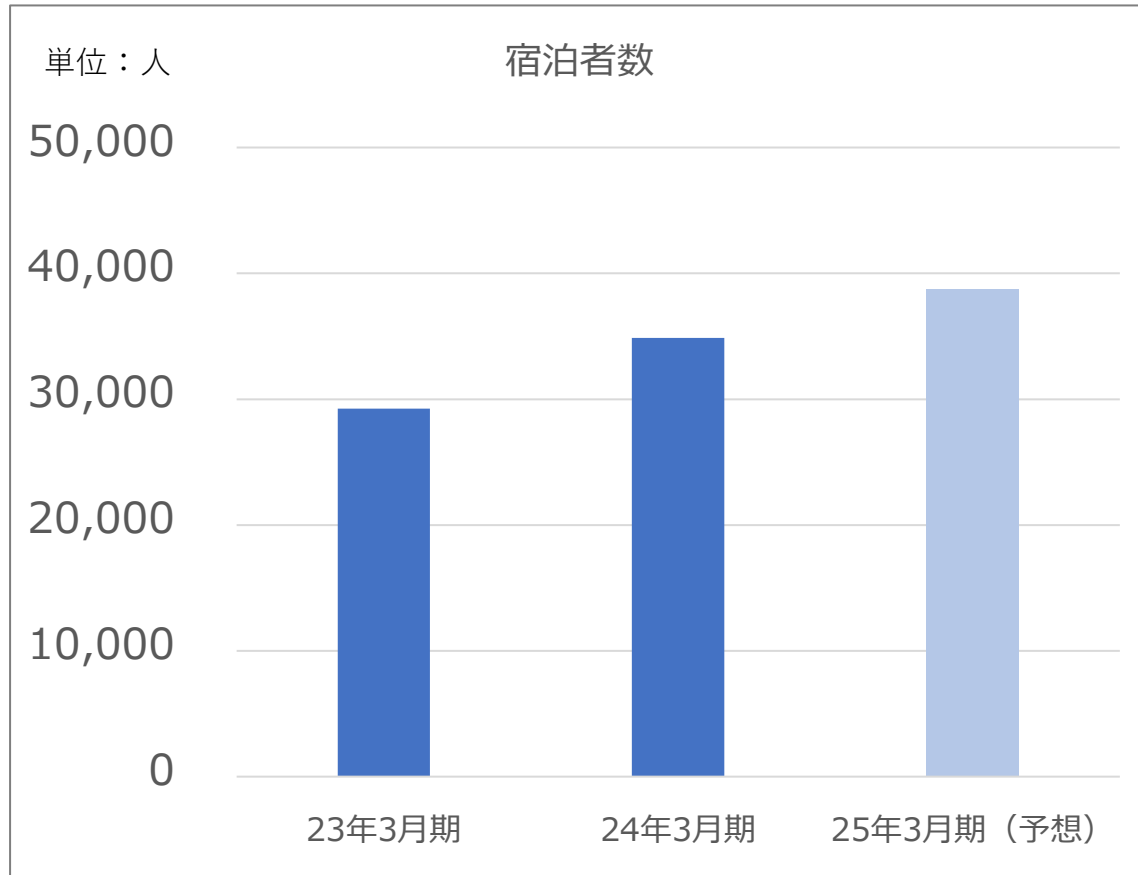
- 伊豆シャボテン動物公園の歴史により蓄積された経験やノウハウを活かし、新たに事業展開を果たしたのが屋内型サテライト施設ともいえるアニタッチ



- 都会においても動物の生態を学びながらふれあい体験を楽しむことができる屋内型ふれあい動物園
- 年間来園者数40万人突破
- 24年4月、
「アニタッチPARK イオンモール太田」オープン
(好調なスタート)
<https://ota.anitouch.com>
- 今後も新規出店計画し、
メディアの取材も積極的にお受けします！

【ホテル事業】

- 伊豆に3つのコンセプトホテル（グランピング、プチホテル、ホテル）を営業



- 【グランピング】3施設
ドームテント内にバストイレを完備
 - 「伊豆グランヴィレッジ グランピング」
伊豆ぐらんぱる公園（夜はグランイルミ）に隣接
自然の中、フィンランド式サウナで”ととのう”を体験
 - 「グランピング 伊豆シャボテンヴィレッジ」
伊豆シャボテン動物公園に隣接
エリア内に天然温泉の露天風呂
 - 「ANIMAL CAMP」
伊豆シャボテン動物公園に隣接
伊豆シャボテン動物公園で暮らす動物や大自然がテーマ
- 【プチホテル】
モダンでシックなお部屋や自然や動物がテーマ
- 【ホテル】
全室オーシャンビュー、伊豆高原の町並みや伊豆大島を一望

【配当についてのお知らせ】

2000年3月期の配当を最後に、長らく無配を継続しておりましたが、2014年11月の経営交代以降、レジャー事業の中核施設である「伊豆シャボテン動物公園」の飼育動物種の拡大・新アトラクションの増設など、来園者様の満足度向上につながる投資を続けながら、ふれあい動物施設「アニタッチ事業」を立ち上げ、複数店舗を出店するに至りました。

また、伊豆エリアで「レジャー事業」と事業間シナジーの見込める「ホテル事業」を初年度から利益を出す形で立ち上げることができました。

結果、コロナ禍で停滞していた業績の回復、及び財務体質の改善も進み、復配に向け一定の目途がついたとの判断に至り、株主の皆様へ利益還元することとなりました。配当方針や配当額の詳細については別途「配当方針の変更及び剰余金の配当（復配）に関するお知らせ」<https://izu-sr.co.jp/forinvestors/> でお知らせいたします。

免責事項

- 本資料に掲載されている情報には、業績予想・事業計画等の将来の見通しに関するものが含まれています。
- これらの情報については、現時点で当社が入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、リスクや不確実性を含むものです。当社としてのその実現や将来の業績を保証するものではなく、実際の業績はこれらの将来の見通しと異なる可能性があることにご留意ください。
- 本資料は当社の情報提供を目的とするものであり、当社株式の購入や売却等の勧誘を目的としたものではありません。当社の有価証券への投資判断は、ご自身の判断で行うよう、お願いいたします。